

思春期に関する取り組み

○事業概要

心豊かにいきいきと生きる力を育むために、小中学校と連携して各種事業を実施。

1 生と性に関する健康セミナー（学校やPTAからの依頼による健康教育）

<内容>

小学校：いのち（赤ちゃんが生まれるまで）の話を通して、自己肯定感を育む。

中学校：異性との関係や性感染症の話を通して、自己肯定感を育む。

<実績>

19年度	3校（553人）
20年度	4校（952人）
21年度	2校（337人）

2 思春期セミナー（小学1・2年生を対象に公募、保健センター主催）

<内容>いのち（赤ちゃんが生まれるまで）の話を通して、自己肯定感を育む。

<実績>

	小学生	保護者
19年度	27人	26人
20年度	32人	29人
21年度	35人	35人

3 性に関する問題遭遇時の支援体制の整備

(1) 生と性に関するアンケートの実施

小牧市立中学2年生（対象者数 1,389 人、回収率 96.6%）

<目的>

- ・正しい知識を持った大人に相談する必要性やどんな窓口があるかを伝えていく。
- ・子どもたちが抱えている性に関する問題や意識・現状を知る。

小牧市立中学2年生の保護者（対象者数 1,389 人、回収率 79.7%）

<目的>

- ・子が問題遭遇時には、信頼できる相談機関に相談する必要性やどんな窓口があるかということを親へも伝えていく。
- ・子に対する親たちの意識や対応を知る。

(2) 安心相談カードを作成・配布

(3) 思春期の子どもたちやその親を対象としたホームページ及び携帯サイトを開設

<内容>

- ・思春期によくある質問Q&A
- ・小学生と中学生のための相談窓口

参考

○中学2年生および保護者への生と性に関するアンケートから見えてきた姿

- ・子は「体について」の心配が一番多く、保護者は特に思春期特有の「体について」の相談を受けた人が多い。
- ・性に関する心配のうち「体について」の心配は、家族に相談しにくい傾向がある。
- ・子は「誰にも相談したくない」「面倒」といった傾向が強い。
- ・子が「性に関する問題を心配したことはない」と認識していても、その保護者は「相談されたことがある」と認識している傾向がある。
- ・「日頃から親子の会話がある」ほうが、「親子の会話がない」よりも、子から性に関する心配について相談されやすい傾向にある。
- ・保護者アンケートの自由回答から、「子からの相談」について、この成長を感じ、ほほえましく思う意見が多い一方で、保護者自身が自分の対応に疑問や不安を感じている声が見られる。
- ・相談機関の利用条件について、子と保護者の条件が一致。会わずに相談でき、いつでも身近に相談できることが上位の条件に上がる。
- ・よく知られている相談機関は、市内では、子・保護者共に「学校・保健室でのカウンセラー」の割合が一番多く、県内（市外）では、子・保護者共に「子ども・家庭 110 番」が一番高い。